様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 30 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０３２０１０２
研究課題名（和文）近代古都研究―歴史と都市をめぐる学際的研究

研究課題名（英文） A Study of Ancient Capitals during the Modern Period: Interdisciplinary Research on History and the City

研究代表者
高木　博志（TAKAGI HIROSHI）
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：３０２０２１４６

研究成果の概要（和文）：日本における近代「古都」を、歴史学・建築史・造園史などから学際的に研究した。奈良・京都・首里といった古都と、岡山・名古屋・大阪・仙台・江田島・呉・熊本など旧城下町や軍都とを研究対象とした。研究会の他に、各地でフィールドワークも実施しつつ、「歴史」や「伝統」と政治的社会的現実との、近代におけるズレや関係性を考察した。また学都や軍都などの都市類型も論じた。個別業績以外に、論文集『近代歴史都市論』を発刊予定である。

研究成果の概要（英文）：We conducted research on “ancient capital cities” in Japan during the modern period using an interdisciplinary approach that combines general history, architectural history, the history of landscape architecture, etc. We selected as the objects of our research ancient capitals such as Nara, Kyoto, and Shuri as well as former castle towns and military centers like Okayama, Nagoya, Osaka, Sendai, Etajima, Kure and Kumamoto. In addition to research workshops, we also conducted field work in each of these locations. In the course of our research, we considered the modern connections and slippages between political and social realities and the concepts of “history” and “tradition.” We also theorized about the urban typologies of scholarly cities, military cities, etc. In addition to the work that we as individual scholars have produced, the results of this research will also be published as a volume of collected essays entitled *The Historical City in the Modern Period*.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	3,300,000	990,000	4,290,000
２００９年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
２０１０年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
年度			
総　計	10,200,000	3,060,000	13,260,000

研究分野：日本近代史
科研費の分科・細目：史学・日本史
キーワード：日本史、古都、城下町、奈良、京都、首里、文化財、紀念祭

１．研究開始当初の背景

1998年7月以来、造園学の丸山宏、建築学の伊従勉と、高木博志の三人が在野で「近代京都研究会」を、歴史学・建築学・造園学・美術史・観光学などの諸分野の研究者総勢60名による総合的な研究として組織し、2003年3月までに51回の例会を積み重ねた。また1999年から2001年度まで科学研究費補助金基盤 (B)(2)「近代京都研究：みやこから一地方都市への軌跡」（研究代表、伊従勉）を受け、その成果を、一般向けに丸山宏・伊従勉・高木博志共編『みやこの近代』（思文閣出版、2008年）、共同研究の成果として丸山宏・伊従勉・高木博志共編『近代京都研究』（思文閣出版、2008年）を出版した。本科研では古都奈良・京都に加えて地方の旧城下町（歴史都市）まで「近代古都」概念を広げ、比較考察しようとした。近畿在住のメンバーだけではなく、研究協力者として本康宏史（金沢）、佐藤雅也（仙台）、小野芳朗（岡山）、三澤純（熊本、メンバー外）にも、現地での巡見、調査を企画してもらった。

２．研究の目的

「近代古都研究―歴史と都市をめぐる学際的研究」では、日本における近代「古都」を歴史学・建築史・造園史・観光学などから学際的に研究する。奈良・京都といった古代の「みやこ」であった古都と、「古都」の範疇に含められつつあるそれ以外の歴史都市（金沢・彦根・仙台といった城下町など）との二種類の都市群を対象とし、「歴史と都市」を鍵概念として、「歴史」や「伝統」などの「古都」表象と、政治的社会的現実とのズレや関係性を考察する。その際に、京都でいえば公家社会の構成員であった官家士族、城下町でいえば旧藩主や士族といった「伝統」勢力と、新たな近代都市の担い手となる商工業者・新興ブルジョアジーとの、「歴史」や「伝統」（京都御苑・平安神宮・城跡・旧藩主顕彰など）と近代都市としての諸行政（疎水、インフラ整備、都市計画など）との相克と展開の解明が、必要となる。とりわけ重視した課題として、第一に奈良・京都が「古都」として、古代の天平文化や国風文化などの歴史的時代に特化されてきた過程を考えること。第二は、仙台・金沢・岡山などの旧地方城下町において、明治維新以後、旧藩に由来し新たに構築される歴史イメージ、すなわち伊達政宗・前田利家などの17世紀の藩祖が選び取られ顕彰され、天守閣がランドマークとなるといった、近代のイメージの形成過程を考えること。第三は、以上述べた古都イメージの形成と政治社会経済的現実との相克を考察してゆくことである。

３．研究の方法

（１）「近代古都」の学際的な研究のために、研究分担者・連携研究者は、[定例研究会]に出席すると共に、各地の歴史都市へ[共同現地調査・研究会] および[個別現地調査]をおこなった。

（２）3年間、毎年、年7回の京都大学人文科学研究所を会場に[定例研究会]を開催した。科研メンバーだけでなく、関連分野の研究者も参加し、毎回20名前後の参加者を得た。そこでは、奈良・京都とともに、金沢・大阪・岡山・熊本・仙台など地方城下町を対象とする報告や、軍都論・学都論、あるいは地理学の地方中核都市論、三都論（大阪・京都・江戸）などの都市類型論の報告ももたれた。

（３）[共同現地調査・研究会]として、2008年度には、岡山大学・小野芳朗の協力のもと岡山の旧城下町や水利施設や後楽園・池田文庫の巡見（7月25日～26日）のほか、名古屋城や中村遊廓（10月25日）、大阪城の巡見（1月24日）もおこなった。2009年度には仙台市歴史民俗資料館・佐藤雅也の協力のもと、仙台城・陸軍墓地・仙台市博物館など旧仙台藩や軍都をめぐる巡見(7月18～19日)、広島県の江田島旧海軍兵学校・大和ミュージアムの軍港の巡見（3月7～8日）を行った。仙台では仙台市歴史民俗資料館と共同で、『仙台市史、近代1』の書評会を行い、呉では坂根嘉弘編『軍港都市研究』（清文堂）の検討を行った。2010年度には熊本大学・三澤純の協力のもと、熊本城・第6師団関係施設、第五高等学校などの巡見（7月17～18日）とともに、『新熊本市史』近代1の合評会を執筆者の参加をえて行った。毎回、科研のメンバーだけでなく、関連分野の研究者と、調査先の地域の研究者を含めて研究交流を図り、毎回20～30名の参加者を得た。

（４）科研のメンバーが各自、研究対象に基づき[個別現地調査]をおこなった。高木博志―京都・奈良・東京、伊従勉―那覇・首里・東京、中嶋節子―熊本、岩城卓二―尼崎・鳥取・石見銀山、藤原学―東京、田中智子―長崎・東京・前橋・仙台・岡山、谷川穣―東京・横浜、黒岩康博―東京・横浜・奈良などで、各地の図書館・資料館・大学などを調査した。

４．研究成果

（１）研究のなかでは、奈良・京都などの古都と、金沢・仙台・岡山などの旧城下町の「歴史」や「伝統」と、政治的社会的現実とのズレや関係性が追求された。具体的に共同研究会や各地の巡見時の報告で、古都奈良に関し

ては、近世から近代への歴史意識の変容、平城京の顕彰などが議論となり、古都京都については、都市計画、都市官僚論、景観、京都御苑の変容、町の自治、第三高等学校の誘致、泉涌寺の神仏分離などがテーマとなった。また歴史都市論として、首里と那覇の都市計画、尼崎の家臣団の解体、金沢の城下町イメージの変容、岡山の旧藩顕彰、仙台の都市イメージ形成、大阪城の近代の再興、京城の都市計画など多岐にわたる報告が議論された。さらに議論は発展して、軍都論・学都論など都市の類型や、三都や京都と奈良などの比較都市論にもおよんだ。今日、世界遺産をはじめ文化的景観や歴史的町並みの保存が行政の課題や研究の対象となっており、本研究課題は、内外で注目されるものである。単なる都市史研究ではなくその歴史性に注目したところに本共同研究の意義がある。

（2）主な発表論文などは、雑誌論文 34 件、図書 9 件にのぼる。

概要は古都京都に関わる出版として、2008 年には、科研のメンバーの多くが執筆した、一般向けの高木博志・丸山宏・伊従勉共編の『みやこの近代』（思文閣出版）の成果を受けて、歴史都市・京都の学際的な論文集『近代京都研究』（思文閣出版）を上梓した。そこでは、都市・風景・文化・政治・学知の諸分野が論じられた（編者以外に、藤原学・黒岩康博・谷川穣・原田敬一・小野芳朗が執筆）。科研メンバーの小林丈広・高久嶺之介の編集による京都府知事の日記、塵海研究会編『北垣国道日記「塵海」』（思文閣出版、2011 年）の翻刻作業には高木博志もかかわった。そのほか高久嶺之介は京都府を事例に地域振興にかかわる単著『近代日本と地域振興―京都府の近代』（思文閣出版、2011 年）を上梓し、谷川穣が京都と仏教に関わる論考を、小林丈広が京都の町の自治の担い手に関わる論考を、田中智子が第三高等中学や同志社に関わる論考を著した。

また古都奈良論としては、高木博志が編集した『文人世界の光芒と古都奈良―奈良の生き字引・水木要太郎』（思文閣出版、2009 年）を出版したが、高木博志（古都の修学旅行論）の他、黒岩康博（郷土史家論）・丸山宏（名勝案内論）も執筆した。また高木博志は東大寺旧境内の史蹟指定と開発に関わる論考を著した。

また高木博志は、歴史都市と皇室の関わりにおいて、陵墓に関する単著『陵墓と文化財の近代』（山川出版社、2010 年）と編著『歴史のなかの天皇陵』（思文閣出版、2010 年）の 2 冊を上梓した。そのほか歴史都市論に関わって、伊従勉がパリと京都の都市計画を比較する論考、田中智子が学都論に関わる論考、藤原学が谷崎潤一郎の古都イメージについての論考を発表した。研究分担者および研究協力者の岩城卓二、佐藤雅也、本康宏史、小野芳朗がそれぞれ旧城下町である、尼崎・岸和田、仙台、金沢、岡山にかかわる論考を著した。伊従勉は、琉球の首里の宮中祭祀と聖域の構造の論考を、原田敬一は都市と部落問題に関わる論考や軍隊に関わる単著『日清戦争』（吉川弘文館、2008 年）を著した。

（3）「近代古都研究」の共同研究の進展のなかで、しだいに「古都」から「歴史都市」とした方が、包括的な概念としてふさわしいと考えるようになった。そこで共同研究の成果報告書は『近代歴史都市論』（思文閣出版）として出版する予定である。論集では、「古都奈良・京都」をあつかうテーマとして、古都の修学旅行、奈良町の歴史叙述、平城京の保存、「町人の都市」論、外国人貴賓と京都、幸野楳嶺論、京都住宅論、京都の近代景観論、仏教教団、敗戦前後の京都御苑、「歴史都市論」として、尼崎の士族の 19 世紀、古都としての江戸論、岡山の近代景観論、歴史都市仙台論、城下町の金沢の記憶、神都伊勢論、戦前の沖縄の都市計画、「比較都市論」として、三都論、軍都論、高等教育の拠点論などの諸論考が、研究会の成果を踏まえて実証的に論じられる。

また「近代古都研究」の成果を踏まえて、日本発では初めての、近代京都に関わる英文の研究論文集を、高木博志・ジョン・ブリーン・丸山宏・伊従勉の 4 人共編で編纂中である。

（4）［定例研究会］は科研のメンバーだけでなく、関連する歴史学・建築史・美術史・地理学などの研究者も参加し、毎回、20 人前後の参加者をえた。研究期間内に行った［定例研究会］の内、科研のメンバー（研究代表・研究分担者・連携研究者・研究協力者）がおこなった研究報告、および巡見を以下に掲げる。

2008 年 4 月 19 日
- 高木博志「近代、古都京都の名所―桜や古典文学を題材に」
- 黒岩康博「実業家武岡豊太と三都の歴史―神戸史談会・皇陵巡拝会・乃木神社」

6 月 21 日
- 原田敬一「「軍都」論の再検討」
- 本康宏史「城下町と『古都』イメージ―加賀百万石の「伝統」文化」

7 月 25・26 日、岡山巡見
- 万城あき「後楽園の近世・近代」
- 小野芳朗「後楽園の水利用と岡山都市空間論」
- 後楽園地図閲覧（説明：北條克敏）、旧陸軍施設跡・東山界隈・後楽園用水見学（案内：小野）、後楽園園内見学（案内：万城）

10月25日、名古屋巡見
「東山御物」展覧会見学（徳川美術館、案内：並木誠士）、名古屋城特別展「失われた国宝　名古屋城本丸御殿―創建・戦火・そして復元」観覧（案内：朝日美砂子）、旧中村遊廓見学
12月20日
佐藤雅也「軍都・学都・杜の都―生活暦（祭りと年中行事など）と戦死者祭祀の変遷」
伊從勉「米軍統治下沖縄の自治的都市計画―1972年施政権返還前に本土並み都市計画制度に復帰した琉球政府の選択」
2009年1月24日、大阪城巡見
豊臣大坂城巡見：真田抜け穴→大阪靖国軍人墓地→鎌八幡（案内：岩城卓二）、
大阪城内近世・近代遺跡見学（案内：北川央）、意見交換（天守閣内）
4月18日
丸山宏・伊從勉・高木博志編『近代京都研究』書評会（評者：高久嶺之介・中嶋節子）
5月16日
高木博志「近代日本の文化財と陵墓―政治や社会との関わりにおいて」
小林丈広「近代日本における都市制度の創設―郡区町村編制法下の「区」」
7月18・19日
仙台巡見（仙台市歴史民俗資料館・旧陸軍墓地・仙台城跡・瑞鳳殿）（案内：佐藤雅也）
7月25日
安楽寺かぼちゃ供養見学・法然院掃苔（案内：黒岩康博）
9月26日
二条城見学（本丸庭園・西南隅櫓・二の丸御殿台所・御清所）（案内：河原伸治・中嶋節子）
11月14日
高久嶺之介「1881年イギリス皇孫の来京」
12月19日
三澤純「「軍都」と都市基盤整備―熊本市の事例」
2010年1月23日
黒岩康博「北畠治房の南朝史蹟考証」
3月7・8日
江田島・呉巡見（旧海軍兵学校・呉市海事歴史科学館・入船山記念館）（案内：飯野俊明）
飯塚一幸「日露戦後の舞鶴鎮守府と舞鶴港」
5月15日
高木博志「近代京都と泉涌寺」
小野芳朗「近世城下町と都市計画法都市―岡山の招魂社・陸軍・公園を巡る問題」
7月17・18日
熊本巡見（山崎練兵場跡・辛島公園・花畑公園・高橋公園・徳富記念園）（案内：三澤純 ）
『新熊本市史』勉強会：報告―小林丈広・高木博志・田中智子・三澤純
10月16日
本康宏史「「城下町金沢」の記憶―創出された「藩政期の景観」をめぐって」
原田敬一「「軍都」論と近代都市史研究」
11月20日
小林丈広「「町人の都市」論の可能性」
12月18日
伊從勉「戦前沖縄県振興計画と都市計画」
2011年1月22日
岩城卓二 「畿内城下町と士族の19世紀―尼崎を例に」
丸山宏 「「三都論」と「三府論」」
3月12日
黒岩康博 「「南都」・「古京」・「平城京」 ―宮址保存と奈良」

（5）岡山大学、大阪城天守閣博物館、仙台市歴史民俗資料館、仙台市史編纂室、熊本大学、新熊本市史執筆者、呉市海事歴史科学館などの、旧地方城下町や軍都の地域の研究者と合同の研究会を持つことで、それぞれの地域史研究のもつ課題や、歴史都市論の射程を考察した。

（6）学会発表は、国内だけでなく、中国・ブラジル・パリと、国際的にも、近代日本における歴史と都市をめぐる問題を、発信した。

5．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計34件）
①高木博志、開発と保存――九三二年七月二三日「東大寺旧境内」史蹟指定、日本歴史、査読有、752号、2011、145－150
②岩城卓二、日本近世における噂の力、人文学報、査読有、101号、2011、1－17
③伊從勉、古流球の首里城神女祭祀と聖域の盛衰、建築史学、査読有、56号、2011、2－46
④黒岩康博、宮武正道の「語学道楽」―趣味人と帝国日本、史林、査読有、94巻1号、2011、125－153
⑤小林丈広、第二回衆議院議員選挙前後の京都―中村栄助を中心に、同志社談叢、査読無、31号、2011、16－35
⑥谷川穣、「教」の時代―近代日本形成期の仏教と民衆教化・僧侶養成・俗人教育、季刊日本思想史、査読無、75号、2010、132－133
⑦伊從勉、都市計画の民主化民度の日仏比較、人環フォーラム、査読無、26号、2010、14

－17
http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/108221
⑧小林丈広、幕末維新期の都市社会―都市行政の変容と町奉行所与力、〈江戸〉の人と身分１都市の身分願望（宇佐美英機他編、吉川弘文館）、査読無、2010、181－211
⑨小林丈広、京都公民会と都市商工業者、キリスト教社会問題研究、査読有、59 号、2010、73－120
http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/ctlsrh.do?bibid=TB12219657&displaylang=e
⑩高久嶺之介、地域史から見た自由民権運動―滋賀県の事例から、近現代史研究、査読無、2 号、2010、31－41
⑪原田敬一、地域史のなかの近代都市史研究―その方法と課題、部落問題研究、査読無、193 号、2010、140－154
⑫田中智子、第三高等中学校設置区域内府県委員会の実態と意義、一八八〇年代教育史研究年報、査読無、２号、2010、27-53
⑬田中智子、官立学校誘致現象の生成と変容―明治中期の京都と大阪、日本史研究、査読有、580 号、2010、3－28
⑭田中智子、「官立学校」の輪郭―近代日本教育制度形成期における概念とその周縁、人文学報、査読有、99 号、2010、31-60
http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/134543
⑮高木博志、近代日本の文化財と陵墓―政治や社会との関わりにおいて、考古学研究、査読有、56 巻 3 号、2009、28－39
⑯小林丈広、都市下層社会と差別、部落史研究からの発信（第 2 巻近代編、部落解放・人権研究所）、査読無、2009、106－116
⑰岩城卓二、掛屋になること―幕末社会における情報蒐集、倉敷の歴史、19 号、査読無、2009、34－47
⑱高木博志、水木要太郎時代の奈良女子高等師範学校の修学旅行と学知、文人世界の光芒と古都奈良―大和の生き字引・水木要太郎（高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2009、171－198
⑲黒岩康博、蒐集家崎山卯左衛門の郷土研究、文人世界の光芒と古都奈良―大和の生き字引・水木要太郎（高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2009、61－80
⑳丸山宏、水木要太郎と「名勝案内」、文人世界の光芒と古都奈良―大和の生き字引・水木要太郎（高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2009、373－388
㉑藤原学、「幼少時代」と明治東京の都市空間、谷崎潤一郎、境界を越えて（千葉俊二他編、笠間書院）、査読無、2009、157－175
㉒中嶋節子、書評・近代京都研究、人文学報、査読有、98 号、2009、327－333
http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/134778
㉓高久嶺之介、地域史から見た自由民権運動、自由民権、査読無、22 号、2009、26－34
㉔田中智子、府県連合学校構想史試論―一八八〇年代における医学教育体制の再編、一八八〇年代教育史研究会研究年報、査読無、１号、2009、29-61
㉕田中智子、地域における「官立学校」の成立―高等中学校医学部の岡山県下設置問題、史林、査読有、92 巻６号、2009、1-30
㉖高木博志、近代京都と桜の名所、近代京都研究（丸山宏・高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2008、141－173
㉗伊従勉、都市改造の自治喪失の起源―1919 年京都市区改正設計騒動の顛末、近代京都研究（丸山宏・高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2008、3－51
㉘藤原学、「昔の東京」という京都イメージ―谷崎潤一郎の京都へのまなざし、近代京都研究（丸山宏・高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2008、199－225
㉙小林丈広、阿形精一と『平安通志』、近代京都研究（丸山宏・高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2008、447－480
㉚丸山宏、近代における京都の史蹟名勝保存―史蹟名勝天然記念物保存法をめぐる京都の対応、近代京都研究（丸山宏・高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2008、174－198
㉛原田敬一、京都府会と都市名望家―『京都府会志』を中心に、近代京都研究（丸山宏・高木博志他編、思文閣出版）、査読無、2008、390－417
㉜岩城卓二、譜代大名岡部氏と岸和田、岸和田古城から城下町へ―中世・近世の岸和田（大澤研一他編）、査読無、2008、200－237
㉝岩城卓二、西摂津地域から畿内・近国社会を考える、歴史科学、192 号、査読有、2008、15－24
㉞田中智子、地域医学教育態勢と新島襄の医学校設立構想―一八八〇年代前半における展開、キリスト教社会問題研究、査読有、57 号、2008、25-64
http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/ctlsrh.do?bibid=TB10290272&displaylang=en

〔学会発表〕（計 13 件）
①谷川穣、大正・昭和初期の仏教と教育―木津無庵の師範学校巡回から、日本仏教総合研究学会第 9 回大会、2010 年 12 月 12 日、駒澤大学深沢キャンパス（東京都世田谷区）
②丸山宏、国立公園と鉄道、鉄道史学会、2010 年 11 月 14 日、跡見学園女子大学文京キャンパス（東京都文京区）
③伊従勉、まちの色―都市の色彩と歴史的空間秩序、街の色研究会・京都シンポジウム、

2010年10月30日、京都市勧業館みやこめっせ（京都市）
④藤原学、都市空間の馴化、日中国際シンポジウム「近代日本の都市表象」、2010年10月29日、大連外国語学院日本語学院（中国遼寧省大連市）
⑤小林丈広、天神山町をめぐる研究の歩み 世界人権問題研究センター例会、2010年10月23日、世界人権問題研究センター（京都市）
⑥高木博志、皇室の神仏分離・再考、明治維新史学会大会、2010年6月13日、駒澤大学深沢キャンパス（東京都世田谷区）
⑦小林丈広、近世中後期京都の救済と町、日本史研究会近世史部会、2010年2月8日、日本史研究会（京都市）
⑧高木博志、近代の陵墓と「国史」像、陵墓関係16学協会（日本史研究会ほか）、2009年11月23日、駒澤大学深沢キャンパス（東京都世田谷区）
⑨谷川穣、分離せず、衝突せず―明治期の教育と仏教の一側面、日本宗教学会第68回学術大会、2009年9月12日、京都大学（京都市）
⑩高木博志、近代日本の陵墓と「伝説」、民間青年文化論壇（広州大学）、2009年8月7日、北京師範大学（中国珠海市）
⑪藤原学、谷崎潤一郎『秘密』の都市空間、F2研究会、2009年8月7日、東京工業大学大岡山キャンパス（東京都目黒区）
⑫伊従勉、Soicial Role of Urban Landscape in Japan and France、フランス人間科学研究財団日本プログラム、2009年6月15日、人間科学研究財団（パリ）
⑬藤原学、都市空間の中の私―谷崎潤一郎「秘密」の空間論、日本－ブラジル国際シンポジウム「都市の近代化と現代文化」、2008年10月10日、ラテンアメリカ記念センター（サンパウロ）

〔図書〕（計９件）
①高木博志編集、谷川穣・黒岩康博・小林丈広ほか、茨木市、新修茨木市史第6巻・史料編近現代、2011、914
②丸山宏、不二出版、『古蹟』解説・総目次・索引、2011、61
③高久嶺之介、思文閣出版、近代日本と地域振興―京都府の近代、2011、347
④高木博志（山田邦和と共編）、思文閣出版、歴史のなかの天皇陵、2010、320
⑤高木博志、山川出版社、陵墓と文化財の近代、2010、110
⑥塵海研究会（小林丈広・高久嶺之介他編）、思文閣出版、北垣国道日記「塵海」、2010、610
⑦高木博志（久留島浩・高橋一樹と共編）、思文閣出版、文人世界の光芒と古都奈良―大和の生き字引・水木要太郎、2009、500
⑧丸山宏・伊従勉・高木博志編、思文閣出版、近代京都研究、2008、614
⑨原田敬一、吉川弘文館、日清戦争、2008、310

６．研究組織
(1)研究代表者
高木　博志（TAKAGI HIROSHI）
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：30202146
(2)研究分担者
伊従　勉(IYORI TUTOMU)
京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号00151689
岩城　卓二（IWAKI TAKUJI）
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：20232639
藤原　学（FUJIWARA MANABU）
京都大学・人間・環境学研究科・助教
研究者番号：60324670
中嶋　節子(NAKAJIMA SETSUKO)
京都大学・人間・環境学研究科・准教授
研究者番号：20295710
谷川　穣（TANIGAWA YUTAKA）
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：10362401
小林　丈広（KOBAYASHI TAKEHIRO）
京都大学・人文科学研究所・非常勤講師
研究者番号：60467397
黒岩　康博（KUROIWA YASUHIRO）
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：60523066　（H21より）
(3)連携研究者
高久　嶺之介（TAKAKU REINOSUKE）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：40104608
原田　敬一（HARADA KEIICHI）
仏教大学・歴史学部・教授
研究者番号：70238179
丸山　宏(MARUYAMA HIROSHI)
名城大学・農学部・教授
研究者番号：30157416
田中　智子(TANAKA TOMOKO)
同志社大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：00379041